

臨地実習ノート・報告書の作成指導による 書字意識変容への効果

芳野憲司* 小池亜紀子* 徳永佐枝子* 長幡友実* 古橋啓子* 宮澤洋子* 兼平奈奈*

1. はじめに

管理栄養士養成施設における臨地・校外実習（以下、臨地実習）は、実践活動の場での課題発見、解決を通して、栄養評価・判定に基づく適切なマネジメントを行うために必要とされる専門的知識及び技術の統合を図り、管理栄養士として具備すべき知識及び技能を修得させることを目的として実施している（日本栄養士会，2014）。実習の単位は、「給食の運営」の1単位と「臨床栄養学」，「公衆栄養学」，「給食経営管理論」の実習の中で3単位以上の計4単位以上の履修が管理栄養士国家試験受験資格の取得要件となっている。また、事前事後指導については、実習前に必要な教育を行う必要性が示されており、「総合演習」1～2単位を利用して、実践活動としての実習効果をより高めるものとする努力を行うことが求められている。それに伴い本学では臨地実習の事前事後指導の授業として「栄養総合演習Ⅰ，Ⅱ」を必修科目で開講している。事前指導は、礼儀・マナー・作法，健康管理，自主課題の設定，臨地実習ノート・報告書の記入方法，臨地実習に関わる科目の復習，実習施設別の指導など臨地実習を履修するにあたって必要な準備や心構えである。事後指導は、臨地実習終了後には臨地実習報告会のスライド作成とプレゼンテーションなどである（古橋，2021）。

臨地実習ノートには、学生が実習中に実践の場で見学・体験から学んだことや気づいたことを記録し、臨地実習施設の指導担当者に臨地実習ノートを提出し指導を受けるが、近年、臨地実習施設の指導担当者から管理栄養士養成施設に対して学生の臨地実習ノートの誤字・脱字の多さ、文字の汚さを指摘する声が多く上がっている。大学生の日本語力判定テストの結果によると、国立大にも少数の中学レベル学生が存在し、私大・短大では中学1年以下から高校3年以上レベルまで幅広く分布しており、大学生の日本語力に個人差が大きいことが示されている（小野，2004）。我々が学生の記入した臨地実習ノート・報告書をチェックしている中でもその個人差が強く感じられる。近年ではパソコンを使ってレポート等の文書を作成する機会が多くなってきており、文字・文章を手で書く機会が減少してきたことがその一因として考えられる。このような背景もあり、「栄養総合演習Ⅰ，Ⅱ」の中で文字・文章を正確に丁寧に書くという基本的な書字能力の向上、書字に対する意識変容を目的として漢字テストの実施や（徳永，2020）、教員が学生の記入済み臨地実習ノート・報告書をチェックする際に使用する「臨地実習ノート・報告書チェック表」を活用した臨地実習ノート・報告書の記載指導をこれまでにやってきた（古橋，2021）。しかしながら、このチェック表を使用した指導による効果をこれまでに評価をしたことがなかったため、今回、初回の指導による書字に対する意識変容の効果を評価した。

2. 方法

2-1 臨地実習ノート・報告書チェック表と指導方法

指導に用いた臨地実習ノート・報告書チェック表を図1に示す。2021年度のチェック表は2019年度に使

* 東海学園大学健康栄養学部管理栄養学科

2-2 アンケート調査

2021年度の健康栄養学部3年生120名（男性13名，女性107名）を対象に，自記式質問紙調査を臨地実習前と実習後に栄養総合演習ⅠおよびⅡの時間に実施した。実習前と実習後の調査項目を図3に示す。実習前の調査は誤字・脱字，文字の書き方，文章の書き方，漢字についての現状把握を目的に，実習後の調査は臨地実習ノート・報告書の記載指導での指摘状況の確認と指導後の書字に対する意識変容の効果を評価する目的に調査用紙を作成して実施した。実習後の調査は初回実習後のチェックを受けた後に実施した。

なお，実習前の調査は調査用紙を配布して記入してもらい，実習後の調査はMicrosoft formsで調査票を作成し，Web上で入力をしてもらった。

<p>実習前アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 日頃，文章を書くときに誤字・脱字が多いと思いますか。 多い ・ 少ない ・ ほとんどない 2. 1で「多い」または「少ない」と回答した人にお聞きします。誤字・脱字を減らすために気をつけていることはありますか？ ある ・ ない 3. 2で「ある」と回答した人は，気を付けていることを回答してください。（自由記述） 4. 文字を丁寧に書いていると思いますか。 思う ・ 思わない 5. 自分の書いた文字が癖字だと思いますか。 思う ・ 思わない 6. 自分の書いた文字が癖字であると，先生など他人から指摘されたことがありますか。 ある ・ ない 7. 5で「思う」または6で「ある」と回答した人にお聞きします。どのような癖字かを回答してください。（自由記述） 8. 話し言葉を使わずに書き言葉を使って文章を書いていると思いますか。 書き言葉を使って文章を書いている ・ 言葉の違いは知っているが，気にせずに文章を書いている 言葉の違いを知らずに文章を書いている 9. 文章を真っすぐに書いていると思いますか。 思う ・ 思わない 10. 文章を行間に合わせた文字の大きさと書いていると思いますか。 思う ・ 思わない 11. 文章を書くときに，漢字や送り仮名がわからない場合にはどのようにしていますか。 「その他」を選んだ場合はその内容を回答してください。 インターネットや辞書等で調べて書く ・ 他人に聞く ・ 漢字は使わずにひらがなで書く ・ その他 <p>実習後アンケート</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から誤字・脱字を指摘されましたか。 多い（3か所以上） ・ 少ない（1,2か所） ・ ない 2. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から送り仮名の間違いを指摘されましたか。 多い（3か所以上） ・ 少ない（1,2か所） ・ ない 3. 1または2で「多い」または「少ない」と回答した人にお聞きします。指摘を受けてから，気をつけるようになったことはありますか？ ある ・ ない 4. 3で「ある」と回答した人は心掛けるようになったことを回答してください。（自由記述） 5. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から文字の書き方が雑（汚い）と指摘されましたか。 指摘された ・ 指摘されなかった 6. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から文字の大きさが不適當（大きい，小さい，ばらついている）と指摘されましたか。 指摘された ・ 指摘されなかった 7. 実習ノートのチェックを受けて，教員から癖字を指摘されましたか。 指摘された ・ 指摘されなかった 8. 5～7で「指摘された」と回答した人にお聞きします。指摘されてから気をつけるようになったことはありますか。 ある ・ ない 9. 8で「ある」と回答した人にお聞きします。気をつけるようになったことを回答してください。（自由記述） 10. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から話し言葉を使っていると指摘されましたか。 指摘された ・ 指摘されなかった 11. 10で「指摘された」と回答した人にお聞きします。気をつけるようになったことはありますか。 ある ・ ない 12. 11で「ある」と回答した人にお聞きします。気をつけるようになったことを回答してください。（自由記述） 13. 実習ノート・報告書のチェックを受けて，教員から文章を真っすぐに書けていないと指摘されましたか。 指摘された ・ 指摘されなかった 14. 13で「指摘された」と回答した人にお聞きします。気をつけるようになったことはありますか。 ある ・ ない 15. 14で「ある」と回答した人にお聞きします。気をつけるようになったことを回答してください。（自由記述）

図3 実習前および実習後のアンケート調査項目

2-3 倫理的配慮

調査実施前に、本研究の目的と調査への協力は任意であり協力しなかった場合に不利益を被ることがないこと、無記名で行い個人が特定されないことがないことを口頭で説明した。

2-4 統計処理

集計対象者は、実習前調査は、104人（回収率86.7%）、実習後調査は、実習ノート・報告書の記載指導を受けていない12名を除いた108人（回収率100%）である。回収した質問紙はMicrosoft Excel 2013を用いて単純集計を行った。

3. 結果

3-1 誤字・脱字, 送り仮名について

表1に実習前の「日頃、文章を書く時に誤字・脱字が多いと思うか」、実習後の「誤字・脱字の指摘があったか」「送り仮名の間違いの指摘があったか」の質問に対する結果を示した。

表1 誤字・脱字・送り仮名について

		人数	多い	少ない	ほとんどない (ない)	無回答
実習前	①日頃、文章を書くときに誤字・脱字が多いと思うか	104	32 (30.8)	56 (53.8)	15 (14.4)	1 (1.0)
	①誤字・脱字の指摘があったか	108	48 (44.4)	40 (37.1)	20 (18.5)	0
実習後	②送り仮名の間違いに指摘があったか	108	19 (17.6)	84 (77.8)	5 (4.6)	0

実習前の①「日頃、文章を書く時に誤字・脱字が多いと思うか」の質問に対して、「多い」が32人(30.8%),「少ない」が56人(53.8%)で、88人(84.6%)の学生に誤字・脱字があった。この内の68名は「誤字・脱字を減らすために気をつけていることがあるか」の質問に対して、「ある」(77.3%)と回答した。気をつけていることは、「わからない文字は調べて書く」が56%、「文章を読み直す」が33.3%と約90%占めていた(表2)。

実習後に記載した臨地実習ノートのチェックを受けて①「誤字・脱字の指摘があったか」の質問に対して、「多かった」が48人(44.4%),「少なかった」が40人(37.1%)で全体の88人(81.5%)で誤字・脱字の指摘があった。②「送り仮名の間違いの指摘があったか」の質問に対して、「多かった」が19人(17.6%),「少なかった」が84人(77.8%),全体で103人(95.4%)あった(表1)。誤字・脱字, 送り仮名で指摘があった学生は、「誤字・脱字・送り仮名の間違いを指摘されて、気をつけるようになったことがあるか」の質問に対して、「ある」が78人(94%)で、「辞書やインターネットなどで調べるようになった」が39人(46.4%),「書いた後に見直すようになった」が24人(28.6%),全体で63人(75.0%)であった。その他では、「二重チェックをしてもらったようになった」、「今まで以上に気をつけるようになった」などの回答もあった(表3)。

表2 誤字・脱字を減らすために気をつけていること

内 容	人数	割合(%)
分からない文字は調べて書く	42	56.0
文章を読み直す	25	33.3
文章の構成を考えてから書く	2	2.7
その他	4	5.3
無回答	2	2.7
合計	75	100.0

*複数回答可

表3 誤字・脱字、送り仮名を指摘されてから気をつけるようになったこと

		n=78	
内 容	人数	割合(%)	
辞書やインターネットなどで調べるようになった	39	46.4	
書いた後に見直すようになった	24	28.6	
よく似た漢字を注意して書くようになった	2	2.4	
その他	19	22.6	
合計	84	100.0	

*複数回答可

3-2 文字の書き方（丁寧さ・癖字・大きさ）について

表4に文字の書き方に関する質問に対する結果を示した。

表4 文字の書き方（丁寧さ・癖字・大きさ）

実習前(n=104)	人 (%)	実習後(n=108)	人 (%)
②文字を丁寧に書いていると思うか		③文字が汚いと指摘されたか	
1. 思う	72 (69.2)	1. 指摘された	12 (11.1)
2. 思わない	31 (29.8)	2. 指摘されなかった	96 (88.9)
3. 無回答	1 (1.0)		
③自分の書いた字が癖字と思うか		④文字の大きさが不相当と指摘されたか	
1. 思う	71 (68.3)	1. 指摘された	11 (10.2)
2. 思わない	33 (31.7)	2. 指摘されなかった	97 (89.8)
④癖字を先生など他人から指摘されたことがあるか		⑤癖字を指摘されたか	
1. ある	35(33.7)	1. 指摘された	24 (22.2)
2. ない	69(66.3)	2. 指摘されなかった	84 (77.8)

実習前の調査では、②「文字を丁寧に書いていると思うか」の質問に対して、「思う」が72人（69.2%）で丁寧に書いている割合が多かった。③「自分の書いた文字が癖字であると思うか」の質問に対して、「思う」が71人（68.3%）で、癖字であると思う割合が多かった。④「癖字を先生など他人から指摘されたことがあるか」の質問に対して、「ない」が69人（66.3%）で指摘されたことがない割合が多かった。また、③の質問で「思う」もしくは④の質問で「ある」を選択した74人に癖字の内容を質問した結果、「右上がり文字」が24人（26.4%）、「丸文字」が15人（16.5%）、「文字のバランスが悪い」が12人（13.2%）の回答が特に多かった（表5）。

実習後に記載した臨地実習ノートのチェックを受けて、③「文字が汚いと指摘されたか」の質問に対して、「指摘されなかった」が96人（88.9%）で多かった。④「文字の大きさが不相当と指摘されたか」の質問に対して、「指摘されなかった」が97人（89.8%）で多かった。⑤「癖字を指摘されたか」の質問に対して、「指摘されなかった」が84人（77.8%）でいずれも指摘されなかった割合が多かった（表4）。

文字が汚い、文字の大きさが不相当、癖字のいずれかの指摘を受けた人の内、気をつけるようになったことがある人が25人（71.4%）で、その内容は「丁寧に書くようになった」が13人（50.0%）、「気をつけて書くようになった」が8人（30.8%）、で全体の約80%を占めていた（表6）。

表5 癖字の内容

		n=74	
内 容	人 (%)	内 容	人 (%)
右上がり文字	24 (26.4)	払いを無視	4 (4.4)
丸文字	15 (16.5)	ハネが強い	2 (2.2)
文字のバランスが悪い	12 (13.2)	筆圧が強い	2 (2.2)
ハネを無視	6 (6.5)	筆圧が弱い	2 (2.2)
止めを無視	5 (5.5)	字が小さい	2 (2.2)
文字が繋がっている	5 (5.5)	その他	12 (13.2)
合計		91 (100)	

*複数回答可

表6 文字の書き方が汚い、文字の大きさが不適當、癖字を指摘されてから気をつけるようになったこと

		n=25	
内 容	人数	割合 (%)	
丁寧に書くようになった	13	50.0	
気をつけて書くようになった	8	30.8	
下敷きや定規を使い真っすぐ書くようこころがけるようになった	3	11.6	
下敷きを使い文字の大きさを確認するようになった	1	3.8	
ペン字の練習帳を買い練習するようになった	1	3.8	
合計		26	100.0

*複数回答可

3-3 文章の書き方について

表7に文章の書き方に関する質問に対する結果を示した。

表7 文章の書き方

実習前 (n=104)	人 (%)	実習後 (n=108)	人 (%)
⑤話し言葉を使わずに書き言葉を使って文章を書いているか		⑥話し言葉を使っていると指摘されたか	
1. 書き言葉を使って文章を書いている	64 (61.5)	1. 指摘された	45 (41.7)
2. 言葉の違いは知っているが、 気にせず文章を書いている	28 (26.9)	2. 指摘されなかった	62 (57.4)
3. 言葉の違いを知らずに文章を書いている	6 (5.8)	3. 無回答	1 (0.9)
4. 無回答	6 (5.8)		
⑥文章を真っすぐ書いていると思うか		⑦文章を真っすぐに書けていないと指摘されたか	
1. 思う	28 (26.9)	1. 指摘された	12 (11.1)
2. 思わない	67 (64.4)	2. 指摘されなかった	95 (88.0)
3. 無回答	9 (8.7)	3. 無回答	1 (0.9)
⑦文章を行間に合わせた文字の大きさと書いていると思うか			
1. 思う	61 (58.7)		
2. 思わない	35 (33.7)		
3. 無回答	8 (7.6)		

実習前の調査では、⑤「話し言葉を使わずに書き言葉を使って文章を書いているか」の質問に対して、「書き言葉を使って文章を書いている」が64人 (61.5%)、「言葉の違いは知っているが、気にせず文章を

書いている」が28人(26.9%),「言葉の違いを知らずに文章を書いている」が6人(5.8%)で、書き言葉で書いている割合が多かった。⑥「文章を真っすぐに書けていると思うか」の質問に対して、「思わない」が67人(64.4%)で多く、⑦「文章を行間に合わせた文字の大きさを書けているか」の質問に対して、「思う」が61人(58.7%)が多かった。

また、文章を書くときに、「漢字や送り仮名がわからない場合にはどのようにしているか」の質問に対して、「インターネットや辞書等で調べて書く」が94人(90.3%)が多かった(表8)。

表8 漢字や送り仮名がわからない場合にどのようにしているか

内 容	n=104	
	人数	割合(%)
インターネットや辞書などで調べて書く	94	90.3
他人に聞く	3	2.9
無回答	7	6.7
合計	104	100.0

表9 話し言葉を指摘されてから気をつけるようになったこと

内 容	n=40	
	人数	割合(%)
書いた後に見直すようになった	14	32.5
分からない場合に調べて書くようになった	12	27.9
分からない場合に人に聞くようになった	2	4.7
書いた後声を出して読むようになった	2	4.7
臨地実習に関する留意事項の本を確認するようになった	2	4.7
その他	11	25.5
合計	43	100.0

*複数回答可

実習後に記載した臨地実習ノートのチェックを受けて、⑥「話し言葉を使っていると指摘されたか」の質問に対して、「指摘された」が45人(41.7%)で、指摘された後に気をつけるようになったことが「ある」が40人(88.9%)であった(表7)。その内容は「書いた後に見直すようになった」が14人(32.5%),「分からない場合に調べて書くようになった」が12人(27.9%)で全体の60%の人が気をつけるようになった。一方で、臨地実習の留意事項を確認する学生は少なかった(表9)。⑦「文章を真っすぐに書けていないと指摘されたか」の質問に対して、「指摘された」が12人(11.1%)で(表7)、表には示さないが12人全員が「文章を真っすぐに書けていないと指摘されてから気をつけるようになったことがあるか」の質問に対して「ある」と回答した。

4. 考察

本研究では、実習前の書字能力についての現状把握と実習後の臨地実習ノート・報告書チェック表を用いた臨地実習ノート・報告書の作成指導を通じた書字に対する意識変容の効果を評価する目的で2回のアンケート調査を行った。誤字・脱字については、栄養総合演習Ⅰの指導で、漢字書き取りテストを2回実施し、1回目の実施後の指導により2回目の正解率が上がっていることが報告されているが(徳永, 2020)、誤字・脱字のある学生は、実習前88人(84.6%)に対して実習後88人(81.5%)と変化がみられなかった。変化がみられなかった背景には、実習中に報告書を書く時間的余裕がなく、実際になると意識することができず行動が伴わないことが伺える。しかし、誤字・脱字・送り仮名の誤りの指摘を受けてから気をつけるようになった学生は78人(94%)であったことから意識の変化は見られた。文字の書き方については丁寧に書いていると思う学生が72人(69.2%)と多く、文字が汚いと指摘されなかった割合が96人(88.9%)と多いことに繋がっていた。癖字があると思う学生は、71人(68.3%)と多いが、指摘があった割合は24人(22.2%)と少なかった。学生が思う癖字が多かったのは「右上がり文字」であったが、指導の段階で罫線付きの下敷きを配布しているため、これを使用して報告書に記入して丁寧に書くことで、指摘が少なくなったと思われる。文章の書き方については、話し言葉で書いている割合は34人(32.7%)だったが、指摘された割合は45人(41.7%)と多くなった。しかし、指摘を受けた学生が、気をつけるよ

うになったこととして、「書いた後に見直す」が32.5%、「分からない場合は調べて書く」が27.9%と意識の変化がみられた。文章を書く力を育てるためには、推敲する習慣を身につけさせることが示されていることから（宮崎，2014），学生の意識変容が今後の文章能力向上に繋がることを期待したい。また，大学生の「書く力」の実態調査（山本，2007）で，日本語能力レベルが低いグループで話し言葉の使用が多いことが報告されており，実習に臨む学生の日本語能力を一定レベルにしておくことも必要となる。大学生に必要とされる「書く力」の育成は，初年度教育あるいは大学4年間を通して取り組むことが理想であることも指摘されている（安藤，2018）。そのため1年間の栄養総合演習Ⅰ・Ⅱだけでは，書く力の能力を伸ばすには限界があることは歪めない。しかしながら，臨地実習ノート・報告書チェック表を活用した臨地実習ノート・報告書の作成は，いわゆるポートフォリオに当たり，提出とチェックを繰り返すことで学生の書字に対する意識変容に効果はあったと思われる。加えて学びのポートフォリオを作ることは教育の成果を可視化して，学んできたことへの自信につながる側面を持っていることも示されており（今野，2019），臨地実習ノート・報告書チェック表を活用した指導は，この効果も期待できると思われる。

本研究の限界として，今回のアンケートによる意識変容の評価は学生による主観的評価であり，さらには臨地実習ノート・報告書チェック表の妥当性についての評価が行われていないため客観性が担保されていないことが挙げられる。今野は「国語科指導法における学生の意識変化と課題」調査結果で，ルーブリック評価分析を用いたことで指導案作成に係わる力量向上がみられてことを示しており（今野，2019），今後はルーブリック評価法を用いて客観的評価法を検討し実施していきたい。

5. まとめ

本研究では，臨地実習ノート・報告書チェック表を活用して臨地実習ノート・報告書の作成指導を行うことで書字に対する意識変容に効果が認められた。しかしながら，指摘を受けた内容によって注意意識のレベルに違いがみられたため，指導方法にさらなる工夫が今後必要であると思われる。また，書字に対する意識変容が書字能力の向上に繋がっているかどうかを客観的に評価していくこと，さらには今回の調査が初回実習の臨地実習ノート・報告書チェック後であったため，2回目以降の調査も実施し，指導を継続することでより高い効果を期待できるかを評価していくことが今後の課題である。

6. 参考文献

- 小野博（2004）. 大学生の学力低下問題と理科教育：日本語力テストの開発と日本人大学生を対象とした日本語学習：大学の物理教育，10：81-84.
- 古橋啓子・小池亜紀子・芳野憲司ら（2021）. 栄養総合演習Ⅰ・Ⅱにおける「臨地実習ノート・報告書チェック表」の活用. 東海学園大学教育研究紀要，5：91-98.
- 徳永佐枝子・長幡友実・芳野憲司ら（2020）. 漢字の書き取りテスト及び漢字力の意識調査による漢字力向上絵の介入効果. 東海学園大学教育研究紀要，4：119-127.
- 日本栄養士会・全国栄養士養成施設協会（2014）. 臨地実習及び校外実習の実際
- 宮崎加代子（2015）. 「文章を書く力」をめぐる課題と指導—大学一回生の作文分析から—. 大阪総合保育大学紀要，9：29-42.
- 山本裕子（2007）. 大学生の「書く力」の実態調査. 日本語教育研究集会，34-37.
- 安藤葉子（2018）. 大学生で必要とされる「書く力」とは. 文化学園大学・文化学園大学短期大学部紀要，49：133-143.
- 今野和賀子（2019）. 国語科指導法における学生の意識変化と課題. 教職研究，97-114.